

平成24年度

「生活者としての外国人」
のための日本語教育事業

地域日本語教育実践プログラム

A

日本語教室 いわて「和」

発表者：会長 佐々木 恵子
副会長 橋元 真理子

事業の概要

日本語教室の設置・運営

場所：いわて県民情報交流センター（アイ・モード）
毎週開催日 10:30~12:00
12:00~14:30
15:00~16:30

※前掲としてマンツーマン形式で日本語学習者
※前半部は大学社会福祉学部、後半部は市民生活センターで実施（第1期）

2 日本語教育を行う人材養成・研修の実際

1 教育資格・新制度についての勉強会
2 外国人生活支援の通年にかかる保護者支援のための勉強会
3 文化庁「生活者としての外国人」向け教材開発ハンドブック作成報告会
4 前半部は大学社会福祉学部、後半部は市民生活センターで実施（第1期）

3 日本語教育のための学習教材の作成

標準的カリキュラム案を参考に
緊急時ハンドブック作成

1 状況に合わせた教材作成
2 地域・7言語・7教材で教材作成
日本語検定、7か国語と翻訳
中国語、英語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語、タイ語

成果

自己研鑽のための研修、保護者支援のための情報交換会、教材作成報告会等を通して、各機関と初めて顔を合わせ、言葉を交わすことが出来、問題を把握することが出来た。

参加人数 総人数54人（外国人3人）

事業名称

地域と共に歩む「いわて 和」
日本語教育事業

事業の目的

日本語学習を通して、日本語を母語としない外国人が地域と繋がり、社会参加がスムーズにできるようにすること、また日本人、地域住民との相互理解を深め安心して暮らしていけることを目的とする。

成果

1.5~1日程度に学習している学習者が、再び日本語を勉強し始め、日本語能力試験を目標とし目的を持って勉強をしている学習者が多かった。また1日程度に日本語学習の継続学習につなげ、1つでも進められる場としての教室に於いて18と達成できた。マンツーマン形式、少人数制が学習者に合わせた教材が出来るが、学習者が多くいると教壇が生じるので、教室形式の指導も考えて行かなければならないと思う。参加人数 26人

※前掲としてマンツーマン形式で日本語学習者
※前半部は大学社会福祉学部、後半部は市民生活センターで実施（第1期）



平成24年度

「生活者としての外国人」

のための日本語教育事業

地域日本語教育実践プログラム

A

日本語教室 いわて「和」

発表者：会長 佐々木 恵子

副会長 橋元 真理子

事業名称

地域と共に歩む「いわて 和」

日本語教育事業

事業の目的

日本語学習を通して、日本語を母語としない外国人が地域と繋がり、社会参加がスムーズにできるようにすること、また日本人、地域住民との相互理解を深め安心して暮らしていけることを目的とする。

事業の概要

日本語教室の設置・運営

・場所：いわて県民情報交流センター（アイーナ6F）

・毎週水曜日 10:30～12:00

13:00～14:30

15:00～16:30

◆原則としてマンツーマンは少人数グループ形式で日本語指導

◆岩手県立大学社会福祉学部、県民センターに道民の皆さん参加による授業（年1回）

2.

日本語教育を行う人材養成・研修の実施

①在留資格・新制度についての勉強会

②外国人児童生徒の通学にかかる保護者支援のための情報交換会

③文化庁「生活者としての外国人」のための緊急時ハンドブック作成報告会

④岩手大学松岡洋子准教授による日本語指導研修会

3.

日本語教育のための学習教材の作成
標準的カリキュラム案を参考に
緊急時ハンドブック作成

①「病気になったら・・・」

②「地震・・・津波・・・あてないで！」

日本語併記、7か国語に翻訳

（中国語、広東語、英語、スペイン語、ネパール語、

インドネシア語、タガログ語）

成果

地域と繋がる、地域と共に歩む

成果

①5～10年前に学習者していた学習者が、再び日本語を勉強し始め、日本語能力試験を目標とし目的を持って勉強をしている学習者が多かった。長い目で見て日本語学習の継続学習につながり、いつでも集まれる場としての教室になっていると認識できた。
マンツーマン形式、少人数形式は学習者に合わせ柔軟な対応が出来るが、学習者が多くなると無理が生じるので、教室形式の指導法も考えて行かなければならないと思う。参加人数：26人

成果

自己研鑽のための研修、保護者支援のための情報交換会、教材作成報告会などを通して、各機関と初めて顔をあわせ、言葉を交わすことが出来、問題を把握することが出来た。

参加人数：総人数54人（外国人3人）

◆学習者、元学習者とともに学習教材を作成したので、学習者のモチベーションアップにつながった。
また、社会参加にも興味を持ったようだ。

◆ 緊急時ハンドブック ◆

「地震・・・津波・・・あてないで！」は平成25年度岩手大学地域防災研究センターの協力のもとに小冊子にまとめられ、地域外国人のために配布する予定。

◆日本語教室の設置・運営

地域と共に歩む「いわて 和」日本語教室（いわて県民情報交流センター アイーナ6F）



◆日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

岩手大学松岡洋子准教授による日本語指導研修会



◆日本語教育のための学習教材の作成（いわて）国語者と翻訳者（学習者、元学習者）



◆「生活者としての外国人」のための緊急時ハンドブック作成

①「病気になったら・・・」 ②「地震・・・津波・・・あてないで！」
（日本語併記、中国語、広東語、英語、スペイン語、ネパール語、インドネシア語、タガログ語）

